

第6回 北九州 市民 映画祭

才能と熱量を
体感せよ！



2023.12.8(金) > 10(日)
北九州市立美術館分館
KITAKYUSHU MUNICIPAL MUSEUM OF ART, RIVERWALK GALLERY
小倉北区室町1丁目1番1号 リバーウォーク北九州4階

青山 真治 監督特集

6TH KITAKYUSU CITIZEN CINEMA FESTIVAL 2023 December 8 > 10

美術館が映画館になる3日間！
青山作品を全身で体感するサウンド重視の上映！！

※会場内に映写機を設置するため映写機の音と光漏れの可能性があります。



| | | |
|-------------|--------------|---|
| 12.8 (金) | 15:30 | 「チンピラ」(101分) |
| | 17:30 | トーク「青山真治監督の起源は陸上部だった?! ～北九州市立緑丘中学校陸上部卒業生トーク」(50分) ゲスト 金哲彦、西田孝広 |
| | 18:30 | 「高塔山ジャム2011」(60分) |
| 12.9 (土) | 10:30 | 「FUGAKU」3部作 FUGAKU 1 / 犬小屋のゾンビ (31分) FUGAKU 2 / かもめ The Shots (41分) FuGAK 3 / さらは愛しのeien (46分) |
| | 13:30 | 「Cinema de Notre temps, Japan Scope」(59分) 「赤ずきん (Le Petit Chaperon Rouge)」(35分) |
| | 15:30 | トーク「映画監督・青山真治の地理学～“失われた北九州への旅”」(50分) ゲスト 堀口徹 |
| | 16:30 | 「Helpless」(79分) |
| | 18:00 | 「シェイディー・グローヴ」(99分) |
| | 12.10 (日) | 10:30 |
| 13:00 | | 「海流から遠く離れて」(19分) 「軒下のならず者みたいに」(41分) |
| 15:00 | | トーク「映画作家・青山真治、その誕生から最期の日までを語り尽くす」(50分) ゲスト 仙頭武則 |
| 16:00 | | 「エリ・エリ・レマ・サバクタニ」(109分) |

※各プログラム10分前開場 ※トークは開催当日チケットお持ちの方参加可能

前売券発売開始→11月8日(水)
前売券発売・予約終了日→12月7日(木)
チケット料金(1回券のみ)
→一般1,500円(前売1,300円)
→25歳以下1,300円(前売1,100円)
前売チケット
→チケットぴあ
→インターネット予約
<https://www.facebook.com/kitaqcinema/>

企画協力: boid 有限会社ヤマガタ
協力: スタイルジャム ブランディッシュ
後援: 朝日新聞社 毎日新聞社
読売新聞社 西日本新聞社
日本経済新聞西部支社
NHK北九州放送局
助成: 北九州市市制60周年記念
市民公募事業採択事業
ふくおかフィナンシャルグループ
文化芸術財団福岡銀行
ふるさと振興基金
公益財団法人北九州活性化協議会
1000人の夢基金
特別協賛: 株式会社スターフライヤー

主催・問合せ先→北九州しねま研究会
<https://kitaqcinema.com/>
email: kitaqcinema@gmail.com
Bridges - Juhaku Tamate





『チンピラ』

1996年/101分/35mm / 配給：オデッサ・エンタテインメント
監督：青山真治 脚本：森岡利行・金子正次 原作：金子正次
撮影：石井勲 音楽：鮎川誠 出演：大沢たかお、ダンカン、片岡礼子、
寺島進、光石研、青山千可子、斉藤陽一郎、諏訪太郎 / 石橋凌
1984年に川島透監督が映画化した金子正次の遺稿を、1996年に劇場用映画第
2作として手がけた。四国から上京してきた洋一と、うだつの上がない中年男の
道夫、チンピラ同士の友情を描く。音楽の担当は鮎川誠。



『シェイディー・グローヴ』

1999年/99分/35mm / 製作・配給：ヒターズ・エンド
監督：青山真治 脚本：青山真治・佐藤公美 撮影：田村正毅
音楽：山田勉生・青山真治
出演：栗田麗、ARATA、関口知宏、光石研、斉藤陽一郎
青山真治監督が初めて手掛けた、女性が主人公の恋愛映画。恋人の小野から別れを切
り出された理花。酔った彼女は、悪戯電話をかけた後、話を聞いてくれた甲野に出会
うが、小野が忘れられない理花。恋人になれない二人は、居場所を求めて歩き始める……。



『高塔山ジャム2011』

映像 by 青山真治監督
2011年/59分/DV / 協力：高塔山ロックフェス
撮影：青山真治 出演：シーナ&ロケッツ
高塔山野外音楽堂で開催された「高塔山ジャム2011」(2011年8月14日)を撮影
した青山真治監督が、2015年2月に他界したシーナ&ロケッツのシーナさんの
追悼のために、特別編集し、白熱のステージに迫るドキュメンタリー。未ソフト化。



『路地へ 中上健次の残したフィルム』

2000年/64分/35mm / 製作・配給：スローラーナー、ブランディッシュ
監督・構成：青山真治 小説：「路地」映像：中上健次
旅・朗読：井上紀州 プロデューサー：越川道夫、佐藤公美
撮影：田村正毅 録音：菊池信之
「音楽を作るように映画を作る」と言った青山真治監督が、坂本龍一や大友良英
の音楽と共に、中上健次に捧げた作品。中上健次が生前撮影していた故郷・紀州
の路地を、同じく紀州出身の映像作家の井上紀州が訪ね歩くロードムービー。



『FUGAKU』3部作

青山真治監督が多摩美術大学映像演劇科の教授在任中(2012~2015年)に、
学生や教員らとともに制作した貴重な中編映画。[映画]「チェーホフの戯曲」
「キャンパスで繰りひろげられる銃撃戦」など、それぞれ異なるテーマの作品。



『秋聲旅日記』

2003年/43分/35mm / 配給：ユーロスペース
監督・脚本：青山真治 原作：徳田秋聲 撮影：たむらまさき
音楽：長寛寛幸 出演：嶋田久作、とよた真帆、ナシモトタオ、西條三恵、
宮上一樹、ケイコ・リー
金沢の堅町商店街振興組と映画館シネモンドが企画した映画製作ワーク
ショップの一環から生まれ、青山真治監督が脚本・監督を担当、徳田秋聲の「挿
話」[籠の小鳥]「町の踊り場」[旅日記]をもとに、秋聲自身の物語として語られる。



『FUGAKU / 犬小屋のゾンビ』

2013年/31分/Blu-ray
監督：青山真治
出演：山本圭祐、足立理、林陽里、秋草瑠衣子、あおやましんじ、
赤塚実奈子、松壽翔平、椎名琴音、大河原恵、濱野風花



『海流から遠く離れて』

2003年/19分/DV / 製作：横浜国立大学
監督・脚本：青山真治
撮影：たむらまさき 音楽：長寛寛幸
出演：光石研
青山真治監督が、横浜国立大学の依頼により脚本・監督した作品。仕事の行き詰まりを
感じた男が久しぶりに訪れた大学。構内を歩き、自らの過去と現在、大学の意味を考え続
ける。社会という「海流」に揉まれた男が、わずかな間、海流から離れ、空間と時間を旅する。



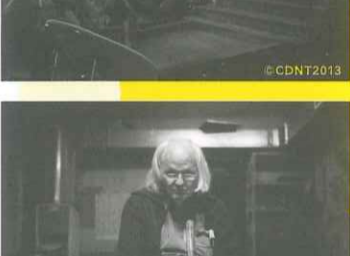
『FuGAKU さらば愛しのeien』

2015年/46分/Blu-ray
監督：青山真治
出演：小出水賢一郎、松壽翔平、坂爪健、得地和軌



『軒下のならず者みたいに』

2003年/41分/DV / 協力：Jeonju Film Festival
監督・脚本：青山真治 撮影：たむらまさき 音楽：長寛寛幸
出演：斉藤陽一郎、中村優子、大久保薫、伊藤秀一
古ぼけたアパートに住む秋彦。彼は曲を創り、ギターを弾き、それを路上で歌って
いる。そんな日々を淡々とやり過ごしているが、それが秋彦の夢というわけでもな
く…。北九州サーガ3部作でお馴染みの秋彦が主役。韓国で開催されているチョ
ンジュ映画祭から依頼を受けて制作された。



『Cinema de Notre temps, Japan Scope』

日本公開：2014年/59分/配給：ズッター公園
監督：フィリップ・エマニュエル・ソルラン 出演：佐藤寿保、瀬々敬久、
黒沢清、仙頭武則、青山真治、塚本晋也、石井岳龍(聴互)
映画評論家アンドレ・S・ラバドによるドキュメンタリー・シリーズ「CINÉMA,
DE NOTRE TEMPS(原題)」が、90年代の日本映画にフォーカス。黒沢清、青
山真治、塚本晋也など現代の日本を代表する監督たちのインタビューを通して、
当時の「新ヌーベルバーグ」ムーブメントを紹介する。



『エリ・エリ・レマ・サバクニ』

2005年/107分/DCP / 配給：パップ
監督・脚本：青山真治 撮影：たむらまさき 音楽：長寛寛幸
出演：浅野忠信、宮崎あおい、中原昌也、筒井康隆、戸田昌宏、鶴見辰吾、
エリカ、川津祐介 / 岡田茉莉子
青山真治監督によるSFドラマ。2015年、視覚映像によって感染し、死に至るウイルスの蔓延により
世界の人は絶望感に満ち溢れていた。地上にはまだ希望は残されているのか？ タイトルは、イエ
スが十字架の上で唱えた最期の言葉「神よ、何ゆえに我を見捨てたもうや」を意味するヘブライ語。



『赤ずきん (Le Petit Chaperon Rouge)』

2008年/35分/35mm / フランス語音声・日本語字幕
監督・脚本・編集：青山真治
出演：ジュディット・シュムラー、ルー・カステル、アルバン・オマール、
ジャン＝クリストフ・フォーリ
デルフィヌ(ジュディット・シュムラー)は銃を手に(あるもの)を探しにだけけるが、そこに待ち
受けていた老人(ルー・カステル)に捕まってしまう。パリ郊外のジュヌヴィエで撮影され、
未ソフト化・未配信ながら、映画評論家・蓮實重彦氏が「知られざる傑作短編」と評した一作。

『エリ・エリ限定』来場者プレゼント 特別冊子

収録内容
● 蓮實重彦氏(映画評論家)×青山真治監督 対談
● *2018年「特集・青山真治」イベントより
● 美術監督・清水剛氏によるデザイン画



『Helpless』

1996年/79分/DCP / 配給：WOWOW
監督・脚本：青山真治 撮影：田村正毅 音楽：青山真治・山田功
出演：浅野忠信、光石研、辻香緒里、斉藤陽一郎、伊佐山ひろ子、
諏訪太郎、永澤俊矢
青山真治監督の長編デビュー作であり、「EUREKA」「サッドヴァケーション」へと
続く「北九州サーガ」の第1作。目的もない日々を過ごす高校生の健次と、組長の死
と組の解散を受け入れられない仮出所したヤクザの安男は、無謀な行動を続ける。

青山真治監督と北九州市民映画祭

青山監督の残した作品の中でも「北九州サーガ3部作」は、映画史におけ
る名作群として記憶されています。作品の制作だけでなく故郷・北九州と
深く関わり続けた青山監督の中から生まれたのが北九州市民映画祭です。
同映画祭は、2010年、「日・中・韓 東アジア文学フォーラム in 北九州」
の応援企画として、青山監督の声かけで市内の映画好き市民ボランティ
アスタッフが集まり、スタートしました。当時、決して文化的に豊かと言えない
北九州市の映画事情でしたが、映画祭ゲストとして韓国の名匠イ・チャン
ドン監督にお越しいただき、大盛況のうちに閉幕。以降、コロナ禍前まで、
青山監督は企画コーディネーターとして携わりました。



Talk Event - Guest トークイベント 毎日ゲスト登場!!

12月8日(金)「青山真治監督の起源は陸上部だった?!〜北九州市立緑丘中学校陸上部卒業生トーク」

金哲彦 プロ・ランニングコーチ
早稲田大学時代に箱根駅伝区間新
記録樹立。マラソン選手として活躍
後、数々のオリンピック選手を指導。
現在は、プロ・ランニングコーチとし
て北九州マラソンをはじめ全国のマ
ラソン大会にゲスト参加などラン
ニングの普及活動を行っている。

西田孝広 美術家、執筆者
国際プロジェクト・コーディネーター。
著書に「サーシャ、ウクライナの話を
聞かせて」、「北歐の小さな大国ス
ウェーデンの魅力150」(共に雷鳥
社)など。美術創作活動も続けるかた
わら、各種国際プロジェクトをサポー
ト。主要マラソン大会通訳も担当。

12月9日(土)「映画監督・青山真治の地理学〜「失われた北九州への旅」

堀口徹 建築映画探偵、近畿大学建築学部・准教授
大学で教鞭をとる傍ら、映画のロケ地をストリートビューで探しながら時空を超えた旅をする「建
築映画探偵」として上映会やトークイベントを不定期開催。「青山真治クロニクルズ」に「映画監
督・青山真治の地理学」を寄稿。

「路地へ 中上健次の残したフィルム」へのオマージュとして、青山真治が北九州サーガで撮影した
故郷・北九州のロケ地を訪ね歩くロードムービー的トーク。

12月10日(日)「映画作家：青山真治、その誕生から最期の日までを語り尽くす」

仙頭武則 映画プロデューサー、名古屋学芸大学教授/京都芸術大学客員教授
1961年生。新人監督を中心に60作品以上を製作し、カンヌ、ベルリンなど国際映画祭で多数
受賞。青山真治監督とは「Helpless」や「EUREKA」など7作品を生み出す。他に「女優堂」
(96)、「萌の朱雀」(97)、「リング」(98)、「M/other」(99)、「美しい夏キリシマ」(02)「接吻」
(08)、「はだかのゆめ」(22)等。

「映画の原点 北九州活弁 LIVE〜弁士・片岡一郎とピアノ伴奏による無声映画三作品〜」
[「子宝騒動」]「チャップリンの午前一時」[「雄呂血」]
11/23(木・祝) 13:00-16:10(予定) 戸畑市民会館大ホール(ウエル戸畑) 前売券 1,500円 当日券 2,000円
主催：申込：北九州映画サークル協議会 TEL093-561-1784(平日の午後二時〜六時) メールからもお申込み頂けます eigacircle@gray.plala.or.jp

青山真治 監督

1964年7月13日、福岡県北九州市門司に生まれる。門司高校在学中ロックバンド「UP-BEAT
UNDERGROUND」を結成(高3で脱退)。立教大学英米文学科卒。1996年「Helpless」で
劇場映画監督デビュー。2000年「EUREKA」がカンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞とエ
キュメニク賞を受賞。同作の小説版が三島由紀夫賞を受賞。2011年「東京公園」でロカ
ル国際映画祭金豹賞審査員特別賞受賞。2015年度まで4年間、多摩美術大学映像演
劇学科教授。2016年度、京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)映画学科の学科長を務める。2022年3月21日逝去。



『青山真治クロニクルズ展』で青山真治の本棚コーナー開催!

想像を絶する勉強家であり、没後、読書家としての側面も広く知られるようになった青山監督の愛書を展覧会
会場で販売いたします。こちらの売り上げは全て、今後の映画運営のために寄付いただくことになりました。

「青山真治クロニクルズ展」12/2(土)>17(日) 北九州市立美術館分館5階
カンヌ国際映画祭をはじめ、国内外で高い評価を受けながら、昨年3月に57歳の若さで逝去した青山監督の映画関連資料を集めた展覧会です。
代表作から完成に至らなかった未公開作まで数々の作品に関連する脚本や美術デザイナー清水剛によるデザイン原画、実際に撮影で使用された
衣装、宣伝ポスターやスチール写真など貴重な資料を一堂で紹介し、今もなお世界に影響を与え続ける青山映画が生み出された背景に迫ります。
北九州映画サークル協議会70周年記念例会
『映画の原点 北九州活弁 LIVE〜弁士・片岡一郎とピアノ伴奏による無声映画三作品〜』
[「子宝騒動」]「チャップリンの午前一時」[「雄呂血」]
11/23(木・祝) 13:00-16:10(予定) 戸畑市民会館大ホール(ウエル戸畑) 前売券 1,500円 当日券 2,000円
主催：申込：北九州映画サークル協議会 TEL093-561-1784(平日の午後二時〜六時) メールからもお申込み頂けます eigacircle@gray.plala.or.jp

「北九州国際映画祭」12/13(水)>17(日) J:COM北九州芸術劇場、市内映画館 ほか
「青山真治監督追悼特集上映」、北九州ゆかりの映画関係者等に関する映画や、国内未発表の映画の上映等多彩な催しを実施。